

## 第2回定期総会報告

### 技術部会の活動状況について

平成20年3月24日

技術部会

# 検討体制 (平成18年度及び平成19年度)

## 平成18年度

**技術部会**  
部会長:後藤 滋樹(早稲田大学教授)  
(技術基準・相互接続試験等の推進)

**相互接続WG**  
リーダ:中野 尚(KDDI)  
(相互接続試験の企画、推進、関係機関の調整)

**技術基準検討WG**  
リーダ:栗野 友文(NTT)  
(技術基準の検討・実証)

**品質・機能SWG**  
主査:千村 保文(沖電気)

**安全性・信頼性SWG**  
主査:田中一寿(日立)

**相互接続・運用性SWG**  
主査:小林中(NEC)

**次世代IPネットワークSWG**  
主査:加藤 正文(富士通)

## 平成19年度

**技術部会**  
部会長:後藤 滋樹(早稲田大学教授)  
(技術基準・相互接続試験等の推進)

**相互接続WG**  
リーダ:中野 尚(KDDI)  
(相互接続試験の企画、推進、関係機関の調整)

**技術基準検討WG**  
リーダ:栗野 友文(NTT)  
(技術基準の検討・実証)

**IP電話SWG**  
主査:千村 保文(沖電気)

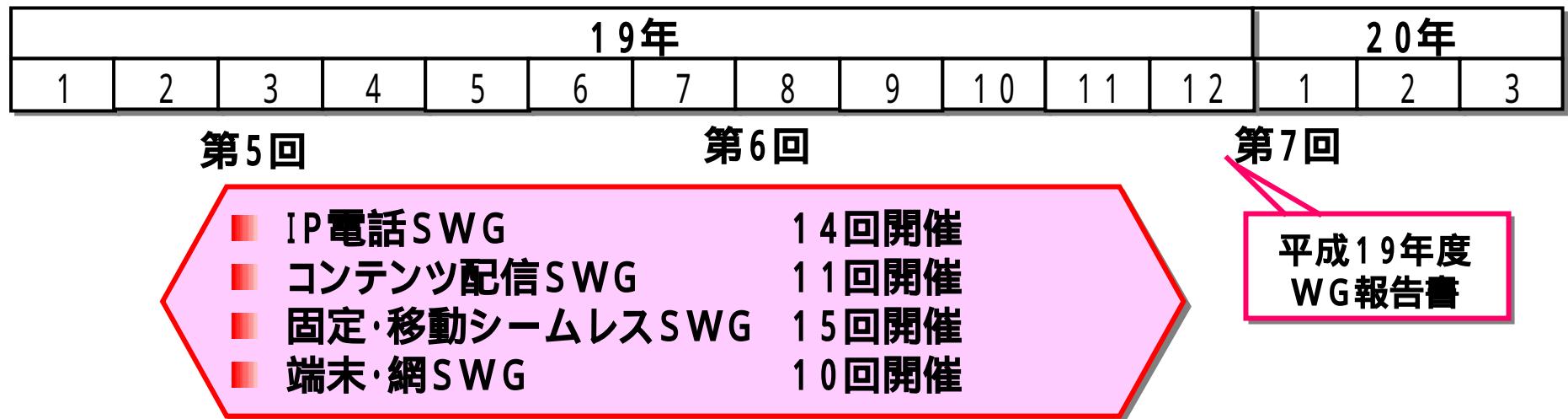
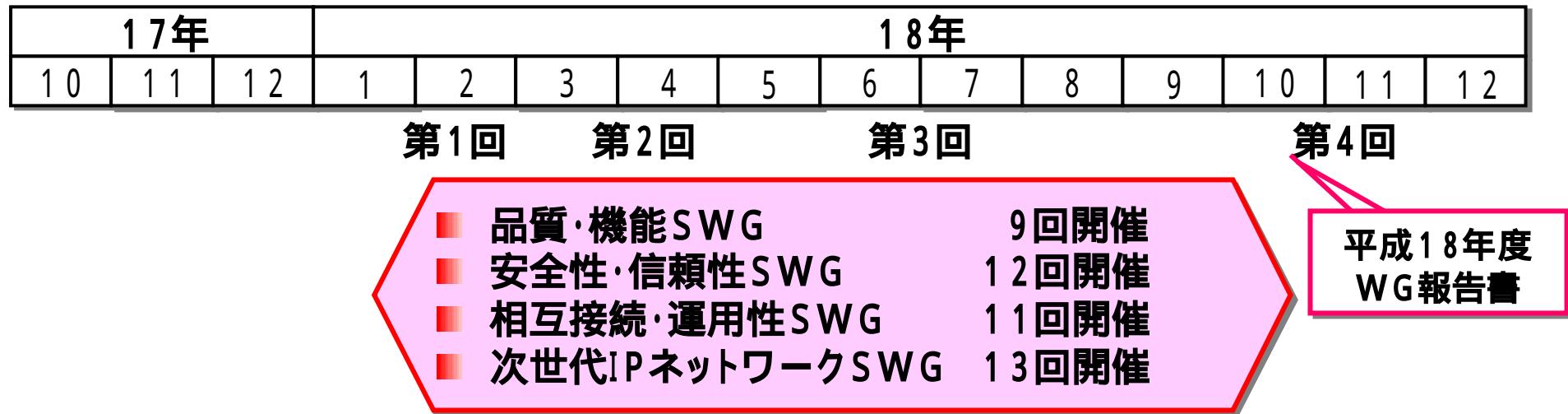
**コンテンツ配信SWG**  
主査:小林中(NEC)

**固定・移動シームレスSWG**  
主査:加藤 正文(富士通)

**端末・網SWG**  
主査:入部 真一(日立)

# 技術基準検討WG

# 会合開催状況



## 平成18年度 検討内容の概要

□ 平成18年度は0AB～J番号を用いるIP電話の技術的条件を中心に検討

- 次世代IPネットワークにおいても、“電話”は最も基本的なコミュニケーション手段であり、0AB～J番号を用いる電話は、社会基盤として生活に最も浸透しており、今後は、アナログ電話からIP電話に移行が進むことから、まずは0AB～J\_IP電話を検討。
- 新たなサービスについても、今後の検討に向けた課題の方向性について検討

## □ 共通ネットワークモデルの作成

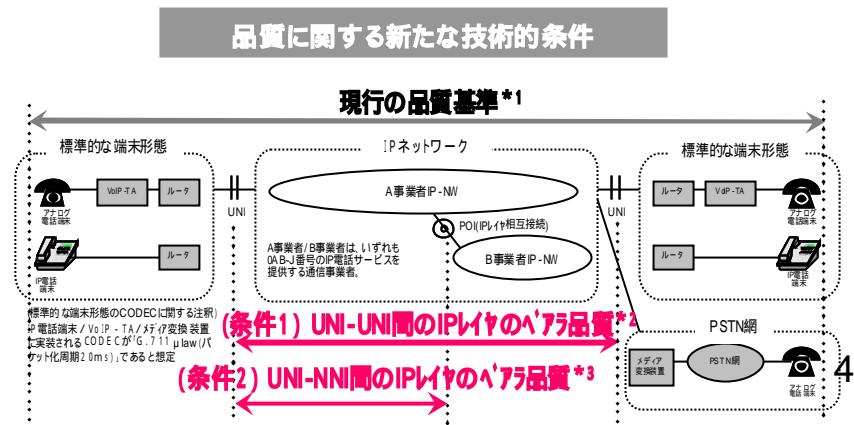
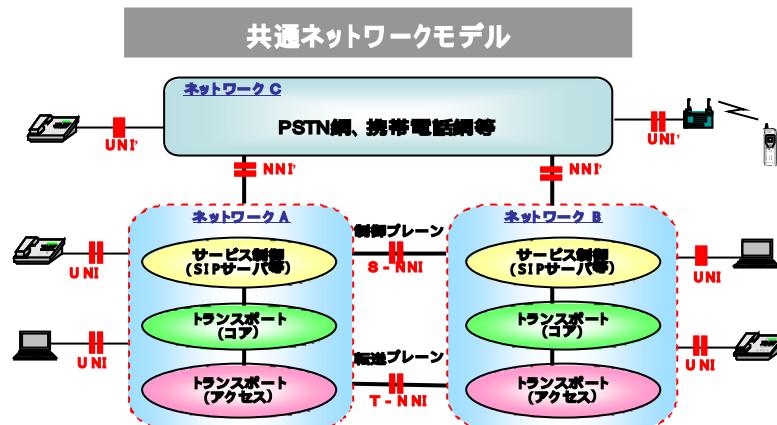
- 品質・機能、安全性・信頼性、相互接続・運用性の観点で総合的に検討するにあたり、共通ネットワークモデルを作成。

## □ 品質に関する新たな技術的条件の提案

- ネットワークの責任分担を明確化し、相互接続を円滑に進めるための品質の条件。

## 1 通信事業者が満たすべきUNI～UNI間のネットワーク品質

相互接続された場合の1通信事業者が満たすべきUNI～NNI間のネットワーク品質



# 平成18年度 検討内容の概要

---

## □ 機能に関する新たな技術的条件の提案

- ネットワークと端末が機能を分担・連携してサービス提供するために必要な端末の機能  
利用者からの無効呼抑止のために必要な機能  
一斉発呼(登録)の防止機能  
網と端末との遠隔切り分け機能  
サービス品質測定機能

## □ 安全性・信頼性に関する新たな技術的条件の提案

- 発信者番号の正当性を確保するために必要な条件  
発信者番号偽装防止対策
- ネットワークと端末が機能を分担・連携してサービス提供するために必要な端末の機能  
自動再発信を行う端末の発信回数制限  
端末のソフトウェア／ファームウェア更新機能

## □ 相互接続・運用性に関する標準化の提案

- インタフェース条件として標準化が望ましい項目
  - ・トランスポートレイヤプロトコル
  - ・接続先事業者の識別方法
  - ・IPレイヤプロトコル
  - ・符号則・ヘアラ規定
  - ・SIP信号情報要素の拡張について
  - ・オプションサービス範囲
  - ・ネットワーク端末間のインターフェース規定

# 平成18年度 検討内容の概要

---

## □ 新たなサービスにおける課題の方向性の検討

- 以下のサービスについて今後の検討に向けた課題の方向性を検討
  - ・FMC(汎用モビリティ)サービス
  - ・コンテンツ配信サービス
  - ・電子メール
  - ・新たな重要通信・緊急通信の可能性について
  - ・端末網との接続条件について

## □ 上述の新たな技術的条件や標準化の提案以外のもの

- 上述以外にも、現状の技術的条件、標準、ガイドラインの踏襲や、今後の社会的な動向により必要に応じて検討という、提言も行っている。

## □ 報告書として取りまとめ公開

- 「平成18年 技術基準検討WG報告書」として平成18年10月に取りまとめ、次世代IPネットワーク推進フォーラム ホームページで公開中。

## □ 検討結果は総務省、業界団体の検討に反映

- 総務省情報通信審議会IPネットワーク設備委員会答申(平成19年1月)
- 事業用電気通信設備規則等の関連省令等の整備(平成19年11月)
- TTC標準、CIAJガイドライン

# 平成19年度 検討内容の概要

---

□ 平成19年度は各SWG毎に以下の内容について検討

IP電話SWG	: 050_IP電話を中心に検討
コンテンツ配信SWG	: 映像や音楽、音声、データなどのコンテンツを配信するサービスについて検討
固定・移動シームレスSWG	: 固定網と移動網がシームレスに接続され提供されるいわゆるFMCサービスについて検討
端末・網SWG	: 次世代ネットワークの進展と端末の多様化に伴う、端末と網の関係を技術基準の視点で検討

□ IP電話SWGについては新たな技術的条件を提言、その他のSWGは今後の検討に向けた論点、着目点、検討の進め方などを提言

- 「コンテンツ配信SWG」「固定・移動シームレスSWG」「端末・網SWG」の検討対象は、現在標準化が行われている最中であること、サービスの提供が行われていないこと、サービスの立ち上がり期であること、等、から技術的条件の提言はなく、今後の検討に向けた着目点や論点、検討の進め方の提言としてまとめた。

□ 報告書として取りまとめ公開

- 「平成19年度 技術基準検討WG報告書」として平成19年12月に取りまとめ、次世代IPネットワーク推進フォーラム ホームページで公開中。

□ 検討結果は総務省の検討に反映

- 総務省情報通信審議会 IPネットワーク設備委員会報告書(案)(平成20年1月)
- 報告書のパブリックコメントが完了し今後答申予定

# 技術基準検討WGの今後の検討について

---

技術基準検討WGでは、次世代IPネットワークの発展に向け、技術基準の検討・提言を行っている。

平成18年度は、次世代IPネットワークでも引き続き社会的基盤になると予想される、0AB～J\_IP電話について検討を行い、平成19年度は、050\_IP電話、さらには、次世代IPネットワーク上で今後提供が期待されているサービスについて検討を行い提言を行ってきた。

技術基準は、“安心・安全で良質なサービスを利用者へ提供するため”に、利用者や提供者双方にとって重要である。

また、一方では、技術革新やサービスの創意・工夫・発展による“利用者の利益の享受を確保するための自由度を確保”しておくことも重要である。

次世代IPネットワークは、まさにその途についたところであり、今後の発展に向けて、この“安心・安全で良質なサービスの利用者への提供”と“利用者の利益の享受を確保するための自由度の確保”のバランスの取れた技術基準の検討を行っていく。

よって、今後も、サービスの提供状況や標準化の進展状況、さらには社会的な要請などを鑑みながら、総務省 情報通信審議会 IPネットワーク設備委員会との密な連携を図り検討を行っていく。

# 相互接続WG

## 1. 相互接続WG活動報告

### 2006年度(昨年度)におけるWG活動と活動方針設定(参考)

2006年度WG開催(2006年5月9日)

別紙のフローに従って活動することを了承。

2006年度技術部会報告(2007年3月20日)

WGでの整理事項を報告。

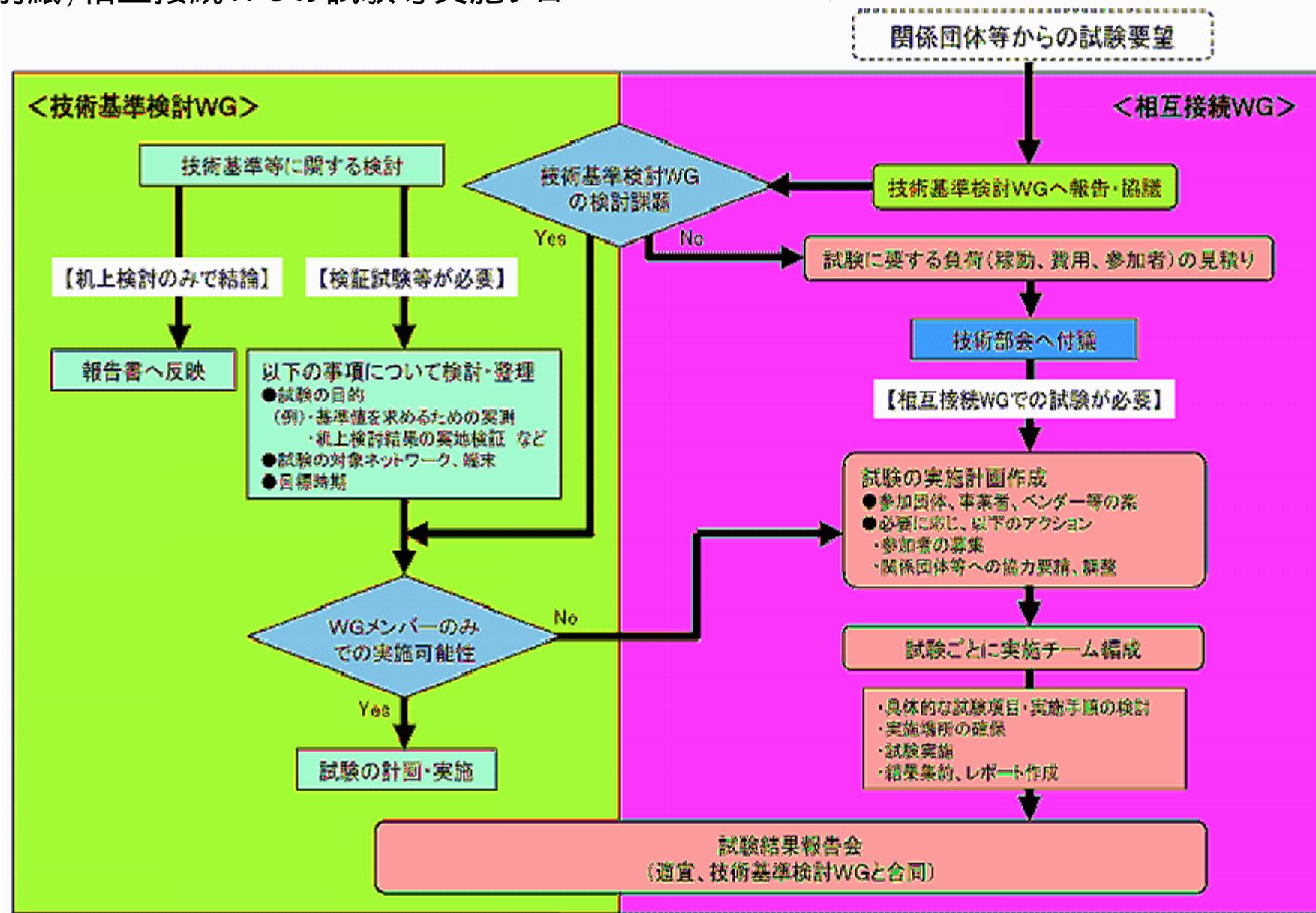
多様化すると予想される相互接続の状況を踏まえ、相互接続試験が必要となる対象等について関係各方面からの意見を求めつつ、適宜対応して行く旨報告

### 2007年度(本年度)におけるWG活動状況報告

#### 2007年度WG活動

関係団体及び技術基準検討WG等からの相互接続試験要望をトリガーにして相互接続WGの活動を実施する予定であったが、結果として、相互接続試験要望等を頂かなかったため、WGとしての活動は発生しなかった。

## (別紙)相互接続WGの試験等実施フロー



## 2. 2008年度の相互接続WG活動方針

当初の活動方針に従い、関係各方面及び技術基準検討WGとも連携しながら、適宜相互接続試験ニーズに対応して行く事としたい。

なお、通信における以下のような環境変化によって、相互接続の検討対象項目は増加傾向にあると考えられ、相互接続WGとして、各種ニーズに柔軟に対応していく事としたい。

